

碑銘「開拓」

栃木県那須町・千振開拓

全国開拓振興協会は会員の協力を得て、開拓の歴史・精神を記録する「開拓記念碑」の調査を実施している

栃木県北部の那須町・千振（ちふり）開拓は、1946（昭和21）年、満州開拓引揚者73戸が入植。千振の名称は、満州開拓の地元の地名に由来する。第2の開拓に打ち込み、開墾。当初は陸稲、麦中心の畑作経営であったが、気象災害が多く、低収だった。そのため、畑は飼料作物を導入し、酪農に切り換えた。現在、日本でも有数の酪農地帯となっている。

開拓記念碑は入植から20年を迎えた66年の^{ちふり}建立で、碑銘は「開拓」。碑文の末尾には、「二代三代さらに吾等の子孫がよき村人として立派な日本農民としてこの大地に育ちくれんことを。開拓は決して死なない」とある。（写真は栃木県開拓農協提供）

千 振

碑 銘 「開 拓」 栃木県知事 横川 信 夫 書

規 模 高さ 211cm 横 307cm 厚さ 15cm

① 碑文 碑裏面（原文は縦書き）

北満の東宮山に別れを告げ/ここ那須山の麓にたどりついたのが/昭和二十一年十一月/皆んな傷つき皆貧しかった/満州に失った千余名の愛し子兄/弟達のことを想ふと立つ力さえ抜/けていった

然しこの吾々を温く抱いてくれた/のはこの那須山と村の人々/力をふりしぼって松や樺の根っ子と/取り組んだ月の光で荒地を拓き/そして麦を蒔いた出来たものは白穂/だけだった

それでもへこたれないで拓きに拓いて/二十年那須山に今日もゆるやかに噴/煙がたなびき乳牛の声が緑の牧場/からきこえて来る傷ついた千振の/兄弟達がはげましあい力をあわせて/拓き造ったこの沃野だ

二代三代さらに吾等の子孫がよき/村人として立派な日本農民としてこの/大地に育ちくれんことを

開拓は決して死なない

昭和四十一年十一月

吉崎千秋記

② 沿革

設 立 昭和23年6月1日

入植戸数 73戸

入植者の前身 満州開拓引揚者

現在も事務所を構えて存続、活動している

③ 所在地

那須町大字豊原丙千振

④ 立地状況

草地在る酪農地帯

⑤ その他の記録等

栃木県開拓三十周年記念誌

「千振開拓 六十年のあゆみ」

千振開拓 60 周年記念事業委員会

「千振開拓 七十年のあゆみ」

平成 2 8 年 1 1 月に刊行

